

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170501639), 法人名 (株式会社 ケア・ハート), 事業所名 (グループホーム あかしあ のんびり館), 所在地 (札幌市豊平区中の島1条7丁目8-1), 自己評価作成日 (令和6年9月1日), 評価結果市町村受理日 (令和6年11月5日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者との関係が事業所内で終結せず、常にご家族と一緒にいる所。楽しい事悲しい事全てを共にしながら生活出来る場所。職員に入れ替わりが少なく入居者と職員が信頼関係を築きながら安心して生活出来ている。季節の行事が多く入居者職員と一緒に楽しめる。ホーム庭には畑があり野菜の栽培や収穫を楽しむ事が出来る。町内会との関係も良好で町内会の一員として町内会行事にも参加出来ている。近隣の子供たちのサークル活動にも参加交流が持てている。職員研修の補助などがあり積極的に勉強参加出来る環境にある。休日が取りやすく残業がない。職員も安定しているためサービス提供もしっかりとできている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170501639-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和6年10月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りのバス停からは至近距離にあり、2か所の地下鉄駅からも徒歩圏内にある。法人の取り組みで新たな研修制度を導入し、さらなる人材育成に力を注いでおり効果が出ている。職員の入れ替わりは殆どなく、利用者の心身の状態を熟知しており、また、家族参加型の企画を立てるなど良好な関係を構築している。運営推進会議では複数の町内会関係者や地域包括支援センター職員、家族から運営の質確保に向けた意見や提案、情報が得られ、地域密着型事業所としての役割に生かしている。職員は食事作りにも力を注ぎ、一汁三菜を主にバラエティに富んだ献立になっている。日曜日は、利用者の要望が多い内容にはなっており、また、菜園の芋などを活用しながら楽しみごとの一つになるよう取り組んでいる。昨年、「北海道働きやすい介護の職場認証制度」を取得している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念、基本理念、ケア理念をユニット内に掲示。社内研修にて理念の持つ意義を確認。町内会や近隣住民との行事交流や意見交換等を定期的に行っている。	「ゆったり 笑顔で その人らしく」を基本理念とし、さらにより具体的な文言を使ったケア理念を策定している。職員は、入職時に尊厳とは利用者がその人らしくいられることと学んでおり、日々のケアに生かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会などの町内会行事に参加。スーパーマーケットの移動販売車の販売場所として敷地内駐車場を提供。	地域の交流も徐々に増えており、これから開催される「公園マルシェ」に参加を予定している。運営推進会議にも複数の住民の参加を得ている。住民から入居等の相談事があり、管理者は丁寧に対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、活動報告等を行い認知症の人の理解や支援方法を理解して頂く機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会役員や民生委員、包括支援センターの職員、入居者ご家族に参加して頂き、サービス向上のための意見を頂いている。	2か月ごとの会議では、運営状況に加え、資料として行事等の写真を添付し現況を報告している。民生委員の情報により公園マルシェに繋がりが、地域包括支援センターの提案を受け入れ駐車場に移動販売車が定期的に立ち寄り、住民との交流ができています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、メールにてやり取り。運営推進会議に地域包括支援センターの職員の出席協力を頂いている。	円滑な運営に向けて、行政の各担当者とは報告や各種の相談などで法人職員と管理者が良好な関係を構築し、利用者の安定した生活を支えている。殆どはメールでのやり取りだが、電話も活用し運営状況を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止及び虐待防止委員会を設置し、3月に1回の頻度で事例検討会や本社主体の研修を年2回実施している。	身体拘束や虐待のないケアは職員全員が理解しており、実践で示している。指針に沿って適正化委員会や研修会を定期的に行い、人感センサーの使用時は検討や改善策を話し合っている。入浴時も身体の変化を観察している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、身体拘束廃止及び虐待防止委員会を設置し、3月に1回の頻度で事例検討会や本社主体の研修を年2回実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が知識として持ち合わせているものの、現状利用が必要な対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約に関する書類等一緒に読み合わせを行い、不安や疑問点について都度確認し、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やご家族との電話、LINEにて意見交換。契約書、事業所玄関やフロア内に意見や要望、苦情等を行える外部相談窓口を掲載している。	家族には利用者の日常を毎月のユニット便り、運営推進会議録、ホームページでの発信、電子機器を活用した都度の動画や写真の送信などで伝えている。また、BBQなど家族参加の企画も立てるなど、関係性を大事にしている。利用者や家族の意向には可能な範囲で応じている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月に一度のカンファレンスや定期的な面談、その他日常的に職員と意見交換を活発に行うようにしている。必要に応じて管理者は代表者へ報告している。	管理者は、職員とのコミュニケーションを通して運営や業務に関する提案等を聞いており、改善や質向上に生かしている。内容によっては、代表者や法人職員の指示を仰いでいる。職員は、居室担当や各種業務で力量を発揮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を利用し、職員の努力や実績を評価し、給与に反映。面談の実施にて課題や目標のすり合わせを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度から、すべての職員を対象に法人内研修を実施している。新人職員対象に別に研修プログラムを整備、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市、区のグループホーム連絡会に定期的に参加し、勉強会や情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に対する不安や要望等、安心して相談できるような声かけや立ち振る舞いを心掛け実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談時から親身に困っている事や不安なこと、要望等に耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族、その他関係機関からの情報を基にケアプランの作成、サービス担当者会議を開催している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援、利用者本位を心掛けケアプランを作成し、サービス実施に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や運営推進会議への参加、面会や外出の機会、病院受診への付き添い協力等依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人のとの関係が途切れないよう面会や電話、LINEでのやり取りなどの支援を行っている。	自由な面会により親しい人達との会話や外出ができ、一時帰宅で家族と会えたり、外食や墓参りができている。電話や手紙を取り次ぎ、また、利用者が持参したアルバムを一緒に見て回想に繋がるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、問題なく接することができるよう席の配置などの環境整備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の相談にも不安がないように親身に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向の他、ご家族等からの生活歴や生活状況などの情報を基にその人らしい暮らしを支援するようにしている。	職員は、利用者一人ひとりの背景や現在の状態を把握しており、その時々様子で判断しながら支援方法を変えている。二者択一も試み、利用者の思いや意向に応えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からご家族や他機関から情報収集、事業所の基本情報シートを活用し整理している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や定期的なアセスメント、その他関係機関等からの情報など活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なサービス担当者会議にて評価・課題分析を行いケアプランの見直しを行っている。	介護計画は定期的に再検討しているが、利用者の体調変化時は、現状に見合った支援目標を策定している。居室担当職員のモニタリングをもとに職員全員でアセスメントを行い、利用者や家族の意向に沿った内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット入力にて介護記録を作成。日々の申し送りにて情報共有、必要に応じてケアプランの見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊などの希望に沿えるよう柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お花見やピクニックなどで近隣の公園の利用。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療を選択している方が殆どだが、馴染みの主治医の診療を希望している方もおり、外来受診で対応している。	殆どの利用者は、月2回訪問診療を受けている。従来からのかかりつけ医や専門医への外来受診は家族対応とし、診察結果は関係者と共有している。週1回の訪問看護師による健康チェックにより、早期の対応ができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回程度、職場内の看護師が健康状態を把握し、必要に応じて医療機関と連絡を取り合い、職員へ指導や指示を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者は、随時病院関係者との情報交換をおこない、早期に退院できるよう退院後に必要な環境整備など調整に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応指針を文書にて説明、同意を得ている。その他、ご本人の状態に応じて都度ご家族と医療機関と話し合いを行い方針の共有を図っている。	重度化や看取りに関する対応指針を入居時に説明し、利用者や家族に意向を確かめているが、主治医から利用者や家族に看取りに対する問いかけもある。状態急変時は医療関係者や家族と連携し、職員は、尊厳ある最終支援に臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応についてマニュアルを作成。いつでも確認できるように掲示や手の取りやすい場所に保管している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間を想定した火災訓練の実施と一緒に水害や震災を想定した卓上訓練を実施。水害地震に関して地域も同様に被災している状況が考えられお互いに協力しましょうと話している。	毎年、2回の避難訓練を計画し実践しているが、今年度はこれからのとしている。火災発生時の避難先は、道路を隔てた法人本部とし、水害は2階のユニットに、地震時は公的避難場所としている。	これから夜間帯における火災、地震、水害を想定した訓練を計画しているので、その実行と、加えて避難所への実践的訓練、災害時での入浴などケア場面の対応に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社理念や倫理規定等について理解を深める研修の実施により、職員が誇りやプライバシーを配慮した言葉かけや対応をできるようにしている。	日々の業務や都度の研修時で、正しい接遇に対する理解を深め実践に努めている。呼称は名前にさんづけとし、個人情報はイニシャルを使うなど職員間で共通認識としている。言葉がけで気になるときは、管理者が注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で一方的に支援するのではなく、本人の意思を確認するようなケアを意識して行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、活動、就寝時間など一人一人の希望、ペースに合わせて実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を確認しながら整容や更衣の支援を実施。定期的に訪問理美容にてヘアカットの機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態で提供。盛り付けや配膳・下膳などできる方とは職員と一緒にやっている。	メニューと食材は法人本部から届いているが、菜園の野菜も取り入れ柔軟にアレンジしている。日曜日の自主メニューは利用者の要望を取り入れ、また、行事食として出前寿司を注文、敬老会の祝い膳、夏祭りは家族参加でBBQを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形態、栄養バランスは一人ひとりに合わせて提供。水分確保のため、個々の好みや身体状態に合わせて味の、ゼリー等形状の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に応じた口腔ケアを毎食後に実施。月に2度歯科の訪問診療。職員は口腔ケア指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、利用者の状態に合わせておむつやパットを使用している。	自力でトイレに向かう利用者の見守り、状況に応じて2人で介助、ベッド上での支援、排便はポータブルトイレの使用と様々だが、羞恥心に配慮して支援している。衛生用品の使用時は、利用者や家族の意向を踏まえて職員間で話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取の工夫、体操の実施にて便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2日程度の入浴を基本としているが、本人の意向や体調等考慮し、無理強いないように心掛けている。	入浴は同性介助の要望を取り入れ、できない部分を支援している。入浴時は、利用者に話しかけるなど、コミュニケーションを取り内容によってはケアプランに載せ意向に応じている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさや寝る前の習慣など個々の好みに合わせて生活して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に使用しているタブレットに薬の情報を入れ、常時確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや能力に応じて、お手伝いや勉強、体操や散歩などの運動、その他趣味活動の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族にも協力頂き、外出の機会を作っている。近隣の公園までお散歩やお花見、お弁当を持参しピクニックなど行っている。	コロナ禍や高齢化のこともあり身体機能の低下はあるが、畑の野菜の成長を眺め、近くの公園で桜を觀賞、職員手作りのお弁当を持ってピクニック、また、外来受診など家族の外出支援も得られている。時には外出レクで都市型公園に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭の所持についてトラブルになりやすいため、ご家族に全て管理してもらっているが、不安の強い方については少額の所持は許可しているも、使うことの支援はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りについて希望時に支援している。LINEのビデオ通話の利用も可。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	春先から玄関先に花を置いたり、季節ごとに利用者さんと一緒に制作した飾りでフロア内を装飾し目で楽しめる様にしている。居室やトイレ、洗面所などの場所が分かりやすいよう大きな字で標識をつけている。	リビングは、利用者で作ったハロウィンなど季節に因んだ作品等を飾っている。職員は、空調の調整など利用者が快適に過ごせるよう努めている。利用者は、日々家事や脳トレ、新聞を読んだり得意分野で力を発揮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席など気の合うもの同士で座れるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできるかぎり、使い慣れ親しんだ家具や飾り、洋服など持ち込んで頂いている。アルバムや仏壇など持参されている方もいる。	クローゼット付きの居室には、自宅から持参した調度品や趣味の編み物道具、家族写真等に加えレクでの作品を飾っている。その中でテレビを観たり、一休みをするなどプライベートの時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、洗面所など標識をつけ場所の把握がしやすいようにしている。廊下やトイレ、お風呂場など必要箇所に手すりを設置している。		